

## 大人もご注意 おたふくかぜ・水ぼうそう

健康エクスプレス No. 78

子供の間で流行することが多い病気として知られているおたふくかぜと水ぼうそう。ワクチンの予防接種がある感染症ですが、成人後にかかるとう症状が重くなることが多いため注意が必要です。今回はおたふくかぜと水ぼうそうについてご紹介します。

### おたふくかぜとは

#### (1) おたふくかぜとは

おたふくかぜはムンプスウィルスによる感染症です。医学的には流行性耳下腺炎という病名で、感染者のせきやくしゃみでの飛沫感染によって流行しやすい病気の一つです。2才から9才ぐらいの子供に多く発症しています。この病気はあごの後ろにある耳下腺(口内で唾液を分泌する唾液腺)にウィルスが感染し、炎症を起こして肥大化し「おたふく」顔のようになってしまうため、おたふくかぜと呼ばれています。耳下腺以外にも、顎下腺や舌下腺が炎症を起こす場合があります。当初、37～38℃の発熱が2日間程度続きます。その後、耳下腺が炎症により腫れてきますが、1週間程度で治まります。



ムンプスウィルスに感染した場合でも、発病せずに全く症状が出ない場合があります。しかし、発病した場合には上記の症状のほかに髄膜炎、脾臓炎、精巣炎などの合併症が起こることがあります。また、成人後にかかるとう、重篤な症状や合併症になりやすい傾向があります。

#### (2) 治療と予防

おたふくかぜの治療に特有な方法はなく、発熱、頭痛や耳下腺の痛みに対する鎮痛解熱剤が投与されます。回復のために、安静にして十分な水分補給を行います。食べ物は消化が良く食べやすいものが良く、酸味の強いものは耳下腺を刺激するので避けましょう。また、子供のおたふくかぜは学校保健安全法により耳下腺の腫れが無くなるまで登校できません。

予防には予防接種が有効です。予防接種を受けたい場合は、医師に相談してみましょう。予防接種は健康保険の適用外ですが、お住まいの自治体によっては費用の補助を受けられる場合があります。なお、おたふくかぜに一度かかると、ムンプスウィルスの免疫ができるため、再度感染することは少ないと考えられています(ただし、耳下腺の炎症は他のウィルスによっても起こります)。

### 水ぼうそうとは

#### (1) 水ぼうそうとは

水ぼうそう(水疱瘡)は、医学的には水痘(すいとう)という病名で、水痘・帯状疱疹(すいとう・たいじょうほうしん)ウィルスによる感染症のことです。飛沫感染により子供同士で感染しやすく、1才から9才ぐらいの子供に多く発症しています。症状としては、当初、発熱が始まり、その翌日ぐらいから小さく赤い発疹が顔と胴体に現れ、次第に腕や脚に広がります。発疹は次第に膨れあがり水疱(水ぶくれ状態)となり、皮膚にかゆみが生じます。水疱は発疹が現れてから4～5日経過すると、かさぶたとなり、その後に元の皮膚に回復していきます。妊娠中の女性が水ぼうそうにかかるとう、本人・胎児とも重篤化する傾向があります。水ぼうそうのウィルスは感染力が強いため、家族や身の回りに患者さんがいる場合は感染に注意が必要です。また、おたふくかぜ同様にウィルスに感染しても症状が現れない場合もあります。



#### (2) 治療と予防

治療には症状に応じて、①発熱に対する解熱剤、②皮膚の症状に対してかゆみ止めや抗生物質などが投与されます。ただし、こうした治療は水ぼうそうのウィルス自体を弱体化させるものではなく、症状を緩和させるものです。子供の水ぼうそうは学校保健安全法によりすべての発疹がかさぶたとなるまで登校できません。

予防には予防接種が有効です。予防接種を受けたい場合は、医師に相談してみましょう。また、おたふくかぜと同様に、水ぼうそうの予防接種も健康保険の適用外ですが、お住まいの自治体によっては費用の補助を受けられる場合があります。水ぼうそうも、一度かかるとウィルスの免疫ができるため、再度感染することは少ないと考えられています。しかし、体内に残ったウィルスが成人後に再び活動を始めて、帯状疱疹を起こすことがあります。

《皆様の安心と安全のプレイントラスト(専門顧問グループ)》

株式会社ヤシロエージェンシーリミテッド 担当：八城一浩

〒107-0052 東京都港区赤坂3-1-2 TEL:03-3582-4511